
東方真眼記

無

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方真眼記

【コード】

N0947Z

【作者名】

無

【あらすじ】

ある男が幻想入りし、そこで生きていく物語、彼は何を得、生きていくのか・・・オリ主幻想入りものです、更新が遅いですがよろしく願います。

プロローグ（前書き）

無謀にも三連載している（これを合わせたら四連載）初心者ですが
よろしくお願ひします。

プロローグ

いつからだろうか

「おらよっ!」

バキッ!

「.....」

随分前からだろうか、いつもこんなかんじだ。

「二度と出てくんじゃねえぞ、ケツ。」

そう言い吐いて、奴等は何処かに行く。

体を起こし、校舎の壁にもたれ掛かる。

上を見ると、雲一つない青空。

顔を殴られたせいか、口の中に血の味を感じる。

体の節々が痛む、ゆっくりと体を立たせ、ボロボロのカバンを取る。

そのまま自分は正門に向かい、歩き出した

家に向かい、歩いて行く。

あちこちでクリスマスツツリーが光り、音楽が鳴り響く。

自分にとってはあまり意味のない、何時もの日に

なるはずだった

キキキキキキキキキキイイイイ!

「キヤアアアア!」

交差点にさしかかったとき、悲鳴と音。

見ると、トラックが回りの車にぶつかりながら坂を高速で降りてくる。

運転手はブレーキペダルを踏んでいるのかタイヤから火花が散っている。

あと数分すればこちらにくる。

なんとなくわかった、ふと隣を見ると小さい女の子が熊のぬいぐるみを持ち、信号待ちでそわそわしている。

「どうかしたのか？」

なんとなく声をかける。

「お母さんが来ないの。」

小さい子は答える。

「向こうにいるあの人か？」

自分は向こうで手を降っている女性を指す。

「…！」「いまからいくの？」

「……そうかい。」

ギヤギヤギヤギヤ

トラックは止まらず、しかもこちらに向けて突っ込んでくる。

自分は女の子のを持ち上げ、壁の後ろに一気に下がらせた。

ブッブー！

女の子は不思議そうな顔をしていた。

人助けをして死ぬるなら最高の自殺のしかただろう。

そして記憶は途切れた

白い空間があった、一面白の世界に一つだけ違うものがある。

8

「おや？おやおやおや？」

柄は古い木できており、かなりの年月がたっていることがわかる。

先端には赤い宝石が、両側の輪の部分には白い宝石が輝いている。

赤い宝石は輪になった杖の先端でゆっくりと回転している。

「めずらしいこともあるものじゃのお……魂が輪廻の輪を外れるとは。」

杖はあらゆる世界を何年も見守ってきた、それこそ言葉で表せないほど長い、長い時間を。

だがその杖でも、このようなことは本当に久しぶりだった。

「世界から落ち、あらたな世界に根付く、生を与えられ、その世界で生きつづける。」

杖はただ世界をみ、それを独り言として語るまで。

「この者はどんな生の道を歩むのかのお……」

ある男が現実に絶望し、死んだ。

それはささいなことであり、本人にとっては重要なことだった。

だが男の魂は輪廻に埋もれず、ある世界に入り込む。

すべてが幻想となり、そして永遠が存在する世界に。

彼は二度目の人生をどう生きるのだろうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0947z/>

東方真眼記

2011年12月3日17時59分発行